

不思議な世界に仰天！

志佐地区青少年健全育成会議

志佐地区青少年健全育成会議（松田克弥会長）が10月16日、「あつまれ松浦っ子サイエンス祭り」を志佐小学校体育館で開催しました。

このイベントは、子どもたちの理科離れが進む中、実際に科学の実験などを体験してもらい、子供たちに理科の面白さを知ってもらおうと企画されたものです。

この日は、長崎大学から森下浩史教授と教育学部の学生たち、九州電力(株)や志佐小学校の先生などが、鏡や電気、水素や液体窒素などを使った科学の実験を行いました。

会場にはたくさんのおもちゃたちが訪れ、科学の実験が生み出す不思議な現象に目を丸くしていました。



特別賞に平川さんと久保川さん

まつうら音楽コンクール

松浦音楽連盟（浦順平理事長）主催の第2回まつうら音楽コンクールが10月16日、文化会館で開催され、高等学校部門と中学校部門において、それぞれソロの部・アンサンブルの部の4部門が行われました。

大会には、松浦市と平戸市の中・高校生がアンサンブルの部に4組、ソロの部に27人が出場し、緊張しながらも、日ごろの練習の成果を披露しました。上位の結果は次の通りです（敬称略）。

【特別賞】

平川咲月（志佐中3年）＝バスクラリネット

久保川舞（志佐中3年）＝トロンボーン



まちの話題

Matsuura City Topics

環境にやさしい長崎県を目指して

人と環境にやさしいふるさと推進大会

県などが主催する「人と環境にやさしいふるさと推進大会」が10月15日、文化会館で開催され、県内各地から約500人が集まりました。

この大会で行われた県環境美化功労者表彰では、本市から団体の部で大崎小学校と上志佐小学校が表彰を受けました。基調講演では、消費生活アドバイザー林真実さんが、家庭で無理なく実践できる省エネの具体例を紹介。事例発表では、調川地区保健環境連合会の柴田則史会長が、調川川美化、花いっぱい運動の発表を行いました。

大会の最後には、大崎小学校6年生8人が、「あいさつで心かよう松浦」と「奉仕活動で心みがく松浦」を目指して活動が続けていくことを力強く宣言しました。



経験を生かして地域に貢献

松浦市シルバー人材センター

松浦市シルバー人材センター（久家幸雄理事長、会員255名）が、10月の全国シルバー人材センター事業協会の普及啓発促進月間に合わせ、清掃活動に汗を流しました。

同センターでは、社会貢献の一環と同センターの活動PRのため、毎年この時期に公共施設の周辺などを清掃しています。今年も市内8地区に分かれて9カ所の清掃に取り組みました。

10月16日には、志佐地区の会員約20人が朝8時から約1時間かけて、松浦駅周辺の除草作業を行いました。鎌や草刈機、一輪車などの扱いも手慣れた様子で、見る見るうちに駅の周辺はきれいになりました。



社会貢献の一環として清掃活動

九電工松浦営業所

九電工松浦営業所（中村真弥所長）と関連会社の社員が10月20日、松浦中央公園などの清掃を行いました。

九電工は、「さわやかコミュニティ旬間（10月17日～28日）」に社会貢献活動の一環として毎年清掃活動を行っています。

この日参加した6人は、竹ぼうきなどを使い、同公園内などの落ち葉を掃いたり、ごみを拾ったりしました。



音楽は国境を越えて

フレンドリーコンサート

音楽愛好家グループ「オルゴールの会」（山口礼子代表世話人）主催コンサート「音楽は国境を越えてがんばる東北へフレンドリーコンサート」が10月23日、文化開館で開催されました。

同コンサートには、山口修さん（ギタリスト）と純子さん（ソプラノ歌手）夫妻やペルーアンデス・クスコを本拠地として演奏活動をしている「インカニャン」が出演。また、版画のほか、ガラス絵や彫刻、絵画を手掛ける小崎侃さんが、音楽に合わせて即興絵を披露する演出もありました。会場に訪れた約170人の観客は、アンデスの大自然を思わせる歌声のハーモニーやケーナなどの音楽に聴き入っていました。

この日の収益金は、東日本大震災ユニセフ特別支援窓口を通して、被災地の子どもたちのために活用されます。



100歳の誕生日をお祝い

山田キクさん

山田キクさん（福島・浅谷）が10月16日、入院先の小島病院で100歳の誕生日を迎えました。

山田さんは、明治44年生まれ。若いころは農業に従事し、60歳ごろからは市外に勤めに出るなど、たいへん仕事熱心で働き者でした。

現在は、体調を崩し体が不自由なため、ベッドで過ごす時間がほとんどですが、入院する前は老人会のゲートボールに参加したり、大好きな潮干狩りに行ったりしていました。

この日は、家族や施設の人から祝福を受け、友広市長からお祝いの言葉や花束を受け取りました。



被災地の復興を願って

松浦市ゴルフ愛好会

松浦市ゴルフ愛好会（平田昭三会長）が10月19日、市役所を訪れ、松浦市民親睦ゴルフ大会の参加費の一部などを東日本大震災の復興支援義援金として友広市長へ手渡しました。

同大会は、スポーツの振興と健康な心身の育成、市民の融和と親睦を目的に昨年からは開催されており、コース内にはチャリティホールが設置されるなど、慈善活動としての一面を持った大会となっています。今回は、今年3月に発生した東日本大震災の被災地復興を支援する大会となり、市民や市内の企業から45組約170人が集まりました。

平田会長は、「少しでも被災者のお役に立てればと思います。1日も早い被災地の復興を願っています」と話していました。

